



研究所の一年を振り返る

所長 池間生子

一年を振り返るにあたり、改めて研究所の設置条例に目を通して見た。第一条「その規定に基づき、教育に関する調査、研究及び教育関係職員の研修を行うため、教育研究所を設置する。」である。

主な業務内容を整理してみた。一年間に行った講座の数は、三十六回、参加のべ人数は千五百六十九名、研究所の指導事項が校内研修、及び学習会に出向いた回数、十回、調査・研修に於ける内容として、標準学力検査の実施に伴う三回の講座、全標準学力学習状況調査の集計・分析、資料作成・学習会、県到達度調査の集計・分析、国語科報告・研究員生との学習会・検討会等、質の向上を図るため、限られた一年間の間で何ができるのだろうか、と考えた一年間であった。

研修会の度に、「学校が忙しい時期なのに！」「開始時刻をもっと早くして下さい。」といった遅くお願ひします。「テーブルは出さない」とメモできません。「駐車場が狭すぎます。」等、いろいろありましたが、終了した後のアンケートには、「ありがとうございました」という感謝の気持ちが伝わって来ました。この一年間、いろいろなアンケートの内容も参考にしたが、要望に応えられる事、改善すべき点、新たな視点等、成果と課題を踏まえ、次年度の研修会に生かしていきたいと思ふ。

今年度の最後の講座は、宮城教育大学の相澤秀夫先生の三回目であった。二月二十日、日曜日、しかも午後十二時開始という参加する先生方への配慮が感じられない実施計画であったが、三十三名の小中学校の先生方が加わって頂いた。相澤先生からは、「先生方が熱心だったから、昼食抜きで後半あとい時間くらいは楽しかった。」といううれしいお言葉をいただいた。学びの課題意識をもっている先生方と共に、学びのある研修会を目指して頑張ります。

国語科課題改善授業実践講座Ⅲ

日時 平成23年2月20日(日) 12:00~13:30
会場 那覇市立教育研究所 研修室
講師 相澤秀夫 宮城教育大学教職大学院教授
演題 「授業改善の具体的な方策を考える」



授業改善の重要な視点について、具体的な指導事例を通してお話して頂きました。
1 「授業はシンプルに！」…捨てられるものはすべて捨てる
2 「教師は優れた学びのモデルとして教壇に立つ！」…教師がやってみせる
3 「学習指導の方法・原理をしっかりおさえる！」…個の学び・個の力・可能性を引き出す
4 「教材研究を通して魅力ある発問を考える！」…発問と質問と確認には大きな違いがある
日曜日の講座でしたが、小中学校から校長先生、教頭先生をはじめ30名以上の先生方に参加して頂き、授業改善の視点や方策について研修を深めることができました。

所内研究員講座

日時 平成23年2月18日(金) 9:30~12:00
会場 那覇市立教育研究所 研修室
講師 波平明美 波平英語塾経営
演題 「英語教育を通して課題のある子ども達をどのように伸ばすか」



学習指導ばかりでなく、生活指導や心の教育に関する内容まで幅広くお話して頂き、学校外での子どもたちの様子についても理解を深めることができました。
・子どもたち一人ひとりの理解に努め、個性を重視した指導が大切です。
・日本語には音と文字に絶対ルールがありますが、英語はspellによって発音が変わるため、音に出して学習する方が合理的です。
・論理(文法等)・音声・記憶をセットにして立体的に学習することが効果的です。

算数・数学授業改善支援チーム会議(本年度の総括)

日時 平成23年2月16日(水) 15:30~17:00
会場 那覇市教育委員会 第5会議室 (とまりん)



平成22年度【要請回数】小学校:36回・12校 中学校:9回・2校 教科会訪問13校
・授業づくりから関わる対応で改善内容が実践的・具体的に研究できた。
・ワークショップ型の授業研究会の推進や授業研究会の活性化に繋がった。
※特に宇根教子社、奥間千賀子社、座安美奈子社、上江田里夏社にはお世話になりました。

那覇地区学力向上対策実践発表会

ステップアップ・夢Ⅱ ~ 再構築 ~
期日 平成23年2月3日(木)
会場 沖縄県男女共同参画支援センター 113号室
時間 14:00~16:45

那覇地区における、各学校の取組状況の情報交換をすることができました。(敬称略)

- 1. 主催者あいさつ 2. 那覇地区の成果・課題



- 3. 実践発表



- 4. 浦添市教委 5. H23方向性 6. お礼



平成23年度の方向性
ステップアップ・夢Ⅱ ~ 総括 ~
学校の取り組み事項

- 教師の授業力の向上
「活用する力」をはぐくむ授業実践
「学習規律」を確立する教育実践